

# 報 載

第十八卷第十三號 昭和七年十二月

## 南 旨 橋 架 設 工 事

施 工 所：朝鮮慶尚南道昌寧郡南旨里、洛東江

計畫概観：本橋は南鮮の主要都市なる馬山、大邱兩府を連絡する重要路線にありて、馬山府より約30軒の地點に位置する洛東江に架設せんとするものなり。

本橋架設地盤は從來渡船連絡なりしが危険にして且つ不便尠からざるを以て窮民救済事業の一として昭和6年度より3箇年繼續事業として新橋架設に着手せり。

本橋附近の洪水位は平水面上實に11米に及ぶことあり、且つ地盤は平水面下平均30米にして、岩盤に達すれば其右意は泥土を含まざる粗砂なるを以て基礎に18米及23米の井筒を使用し、橋脚敷を減ずる爲ゲルバー式鋼構橋を採用せり。

設 計 荷 重：二等橋荷重

橋 梁 製 式：本 橋 スルー・ゲルバー式鋼構橋

取付橋 鐵筋コンクリート・ゲルバー式丁桁橋

橋 長：300 米	}	本 橋	60 米 2 連、70 米 3 連、80 米 1 連
		取付橋	10 米 2 連、18 米 1 連

有 効 幅 員： 6 米

鋼 材 總 量：1010 噸(鐵筋を含む)	}	上部構造	887 噸
		下部構造	123 噸

コンクリート總量：2823 立米	}	上部構造	555 立米
		下部構造	2267 立米

橋 蓋 基 礎：杭打鐵筋コンクリート

橋 脚 基 礎：橢圓形井筒沈下深	}	23 米 1 箇所
		18 米 3 箇所

工事概況：下部工事は昭和6年9月15日起工、昭和7年6月6日下部構造の取付橋を除く外全部完成せり。

鋼材組立は5月20日より7月20日迄にステーズ3回繰返し、一號橋脚より五號橋脚迄4連を組立て洪水期の8、9月組立を中止し10月18日に完成せり。

組立は洪水期鋼材組立中止中に240米間の床版及鋪裝を施工す。冬期井筒コンクリート作業は高級セメントを使用し、三寒四温の大陸性氣候を利用し温燦なる日を選び施工せり。

井筒沈下は粗砂質なるを以て掘削4箇所に於て双口の用を檢査し水中コンクリートを施し、1週間後水替してその結果を檢し尚厚2米のコンクリートを施し底部を完成す。

井筒内鑿孔は圓土則鑿機(12才入)を使用し、井筒沈下標準工率は高級セメント使用の際1ロット(3.30米)を14日間、普通セメントの際は18日間なりき。

コンクリート作業は電動力なく且つ勞銀安きため全部手練とす。

使役人員總人數 23000人 (昭和7年10月15日迄)

工 事 費： 200 000圓  
 内 訳 木 橋 228 000圓  
 取 付 橋 8 000圓  
 器具器械其他 30 000圓

工事執行者： 慶尚南道

設 計 者： 會員 上田政義君， 山田義雄君

工事監督者： 森吉太郎君， 井上安藏君

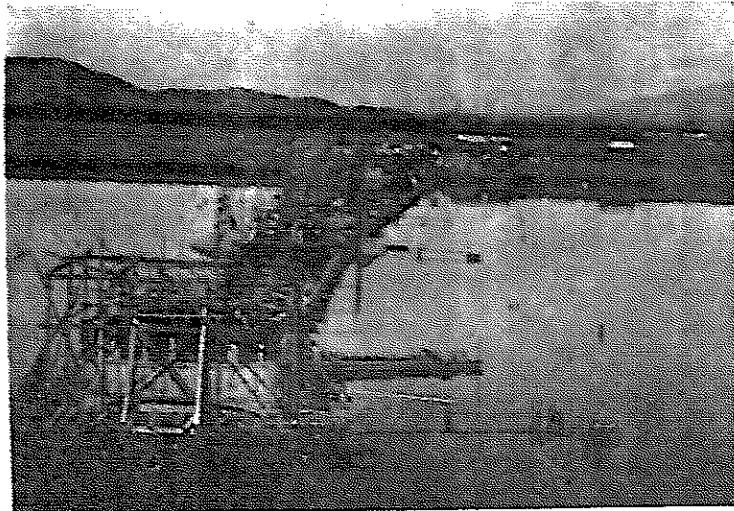
施 工 方 法： 請負， 請負人 間組， 鋼材製作者 大阪横河橋梁製作所

起 工 年 月： 昭和0年9月

竣工豫定年月： 昭和8年3月

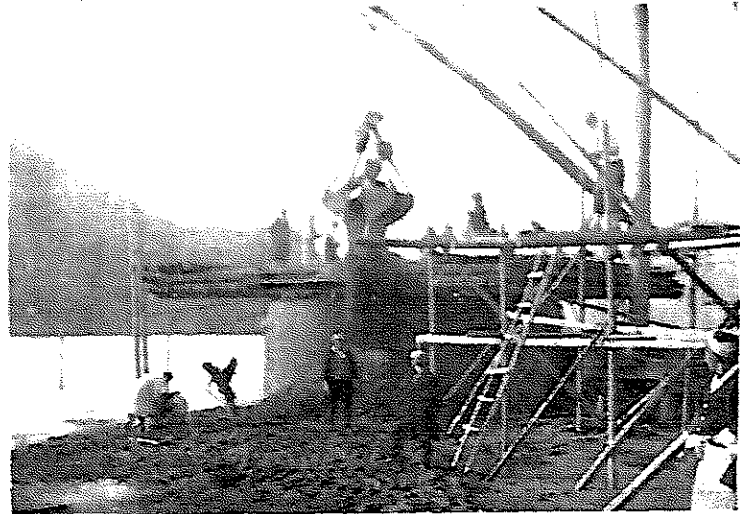
(此の報告に就ては井山安藏君の勞を煩はしたり，茲に感謝の意を表す)

写真第一 基礎工事の概観



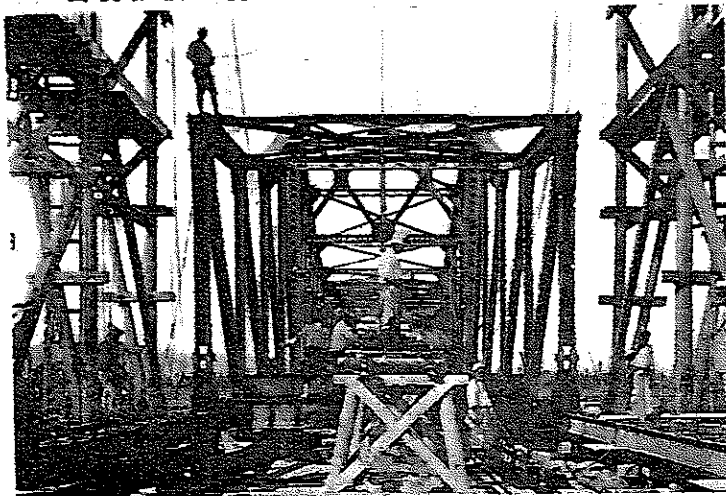
下流が五號オープン・ケーソン

写真第二 井筒掘り作業

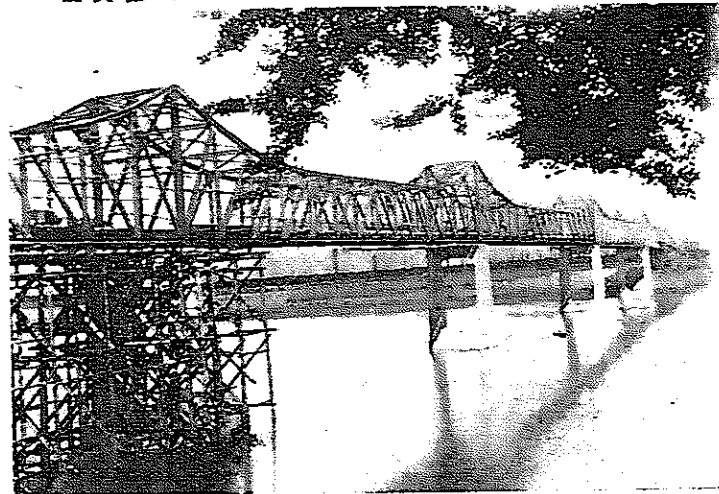


第二號橋脚

写真第三 鋼材組立



写真第四



橋脚手前より 五、四、三、二、一號

海峽一號圖

